

「第7回中心市街地対策協議会」

[要点整理]

日 時：平成20年3月26日（水）13：30～16：00

場 所：島根県市町村振興センター 6階 大会議室

議 事：①松江市中心市街地活性化基本計画（案）について

②基本計画の実施体制について

.....
[要点]

【報告事項】

[これまでの経過について]

- ・ 平成19年3月、中心市街地対策協議会より基本計画案をご提案いただいた。それ以降、中心市街地活性化協議会、国、関係諸機関との事前協議を継続してきたが、概ね協議が調ってきたので、委員の皆様の基本計画案をご確認いただき、また、パブリックコメント募集を実施した。
- ・ 今後は、本日の対策協議会を踏まえた基本計画案により、中心市街地活性化協議会に意見照会を行い、3月28日に開催される中心市街地活性化協議会において回答をいただく予定。その後、各省庁との事前協議結果等を踏まえ、国へ基本計画の認定申請を行っていく。

[基本計画案の変更点について]

- ・ 基本方針、中心市街地地域等の基本的な部分についての変更はない。
- ・ 数値目標指標を変更した。「近隣集客拠点」の達成状況を表す指標を、“歩行者・自転車の通行量”のみとした。「観光・交流」の達成状況を表す指標を、“観光入り込み客数”のみとした。
- ・ 目標数値の取り方を変更した。「まちなか居住」の指標は“居住人口”として変更していないが、住民基本台帳より人口を調査することとした。「近隣集客拠点」の目標指標である“歩行者・自転車の通行量”は、中心市街地内に設定した調査地点8箇所の日、休日の通行量の合計値とし、目標通行量を1万9,000人とした。「観光・交流」の目標指標である“観光入り込み客数”は、平成18年を基準年として算出し、平成18年の全市に占める中心市街地内観光施設等の入り込み客数の割合が41.4%であるため、市総合計画で全市観光入り込み客数1,000万人を目標とする平成23年以降も同じ割合で継続させるとの推計により、410万人を目標とした。
- ・ 基本計画の計画期間中に実施可能なものを基本計画掲載事業とし、実施時期、実施主体等が未定であるなど、不明確な事業については基本計画への掲載を取り止めた。

- ・ 基本計画掲載事業は、新規事業の追加、複数の事業をまとめる、掲載取り止めなどの結果、掲載事業数 43 となった。（※当初掲載事業数 70）
- ・ 新規事業は、若者定住促進事業費補助金、まちづくりプロデューサー設置事業、しじみ館整備事業など。舟つきの松周辺整備事業は、松の樹勢が衰えており、今後の事業計画の見通しが立たないため掲載を取り止めた。

[パブリックコメント募集について]

- ・ パブリックコメント募集を 3 月 20 日から 3 月 26 日午前中まで実施した結果、次のご意見が寄せられた。

①意見募集の方法について

「年度末という実施時期、実施期間、また実施についての周知方法に問題がある。国への申請時期までに意見を検討する余裕があるのか明らかにしていただきたい。」

②松江しんじ湖温泉外湯事業について

「施設設置予定箇所が松江市土地開発公社が保有する土地であり、事業化する場合、一般会計で再取得が必要なため財政負担が生じるが、財政部局との協議が行われていない。松江市との中期財政計画と連動させ、施設規模及び維持管理計画、松江市の関与等を明確にした上で計画に盛り込むべきである。」

(意見等)

- ・ 1 年前にパブリックコメント募集を行い、その後、中心市街地活性化協議会とも協議した上で、今回のパブリックコメント募集を実施したという経緯だが、募集期間が短いというご意見については謹んで受ける。
- ・ 認定を受けた基本計画をホームページで閲覧できるようにして、随時意見を募集するようになりたい。

(※松江しんじ湖温泉外湯事業については、後段で議論)

【松江市中心市街地活性化基本計画（案）について】

[基本計画全般について]

- ・ 国からは補助事業が無いと認定が難しいという話があった。
- ・ 基本計画は実施計画として考えるように話があり、目標を達成するための数値や事業の根拠、エリアを説明する客観的な資料などが求められた。
- ・ 民間事業が無いなら、あえて認定を受ける必要は無いのではとも言われたが、松江市の場合、日赤の現地建替え工事が認定を前提として動いている。
- ・ 近隣集客拠点の目標指標は、統計の取り方が変わり、確実なフォローアップが困難となることから、事業所数を取り止めた。

(意見等)

- ・ 中心市街地活性化協議会では、市より示された基本計画案について、ワーキングを開催し、協議を行った。エリアについては、旧基本計画の 210ha から 403ha に拡大するものであり、かなり議論があったが、了承した。商業関係の数値については、商業統計の数値が減少傾向にある中、それを保つような目標数値はおかしいのではとの議論があり、明確に分かる通行量を目標指標としてはどうかとなった。
- ・ 青森市のあきんど隊長、加藤博氏の講演を何度か聞いたが、青森市は全市をあげてコンパクトシティということに取り組んでおり、松江市の取り組みは遅れているように感じた。中国地方では府中市、山口市、鳥取市も認定を受けてしまったが、松江市はまだ協議中の段階。
- ・ 青森市には除雪費用が相当かかるという問題があり、スピード感が違った。
- ・ 民間事業が少ないのは、サティ、イズミなど巨艦店の動向を、地元資本が様子眺めしているような状況があるため。民間の熟度があがれば、随時、基本計画を変更するなどし、対応して欲しい。
- ・ 数値目標を設定したら、チェックアンドフォローが重要になる。
- ・ 「住んでよし、訪れてよしの“松江らしい”まちづくり」というテーマには、賛成しているが、「住んでよし」の部分が手薄に感じた。
- ・ 「訪れてよし」の方が上手く回っていくと、おのずと雇用や居住が生まれてくるという計画だが、関係性が見え難かった。
- ・ 基本計画案の文言等は再度チェックすること。
- ・ 市としては、広く全体の繁栄を図る姿勢を続けながら、中心市街地の空洞化を抑制するというものであったが、思いと実行の間に差が生じている。新たなことに向かう時に必ず起きる過渡期の現象である。
- ・ 青森市のように、具体的な生活に直に結びついているところほど、早く仕上げた。切実感が違った。

[島根大学旧奥谷宿舎整備事業について]

- ・ 経済産業省の戦略補助金を活用することを念頭に、基本計画に載せた。
- ・ 島根大学で整備計画があると聞いた。平成 20 年度に整備し、展示館は地元の活性化に活用したいとのことだった。
- ・ 地域と一緒にやりたいとの大学の思いから、募金により資金を集める計画と聞いたが、経済産業省の補助事業に該当する可能性があるため、協議を行っている。

(意見等)

- ・ 自分が関わっていた奥谷宿舎が盛り込まれたのは嬉しいことだが、唐突に感じた。
- ・ 島根大学で計画があり、市に動いてもらったもの。

[松江しんじ湖温泉外湯事業について]

- ・ 基本計画は5年間の実施計画であるが、松江しんじ湖温泉振興協議会では収支の合う計画が立っていないという実態がある。
- ・ 民間事業であり、松江市が実施する事業ではない。松江市としては、事業者に土地を購入してもらうか、借地料をもらうことになる。
- ・ 該当地は、もともとKKR（国家公務員共済組合連合会）所有地であったものを、後に松江市が買い取るという約束（議決）のもと、松江市土地開発公社が取得した。松江市が松江市土地開発公社から再取得をしないと、事業は行えない。
- ・ 各旅館それぞれが経営者なので、なかなか考えがまとまりにくい。団体から個人へと旅行形態が変化するなか、旅館経営も難しくなっており、資金を出すことのシミュレーションが困難になっている。

(意見等)

- ・ 5年間で実施可能な事業を盛り込むということで事業を絞っており、外湯も同じではないか。
- ・ 玉造温泉は石見銀山の効果もあり繁盛しているが、その割にしんじ湖温泉は静かなまま。玉造温泉に宿泊された方に、しんじ湖温泉でも宿泊してもらいたいが、エージェントは消極的。通過の町になっては困るので、しんじ湖温泉には頑張ってもらいたい。
- ・ 外湯には賛成だった。付近でウォーキングやマラソンをする人が多く、お風呂に入って帰りたいという意見は聞いている。
- ・ 松江しんじ湖温泉の潜在力は期待されるが、なかなか力が発揮できない。
- ・ しんじ湖温泉には一般の人が入れる温泉が沢山ある。新しく作るのも大切だが、そういうものを使ってあげて欲しい。最近、温泉双方入浴を認めるようになりつつあり、しんじ湖温泉は一般の方が入れるということをアピールすればいい。
- ・ 全体の繁栄よりも個人の利を追わざるを得ないという実情がある。

[舟つきの松周辺整備事業]

- ・ 松の樹勢が衰えており、今後の事業計画の見通しが立たないということで基本計画より削除した。
- ・ 建物そのものはあまり重要な価値のものではない。
- ・ 舟つきの松周辺整備事業があるから、南田町なども中心市街地区域に入れるような関係があったため、計画に載せたいのだが、5年間での実施が決まらない。
- ・ 専門機関の協力を得て、後継樹を育成する準備をしていると聞いたが、数年でできるようなものではない。

(意見等)

- ・ 松の樹勢が衰えたとはいえ、大変重要で歴史的な場所であるため、計画から外れることは寂しく感じる。
- ・ 塩分濃度が上がり過ぎている。一番の原因は堀川遊覧で塩水を入れたこと。
- ・ 今回は基本計画に載せないが、計画ができれば、載せていきたい。

[Ruby City Matsue Project について]

- ・ Ruby を核として、1つの地域資源という位置づけで、地域やシステムエンジニア間での交流が生まれている。これを推進し、また、ソフトウェア関連の事業所を増やすことなどにより、地域活性化を図る試み。
- ・ 拠点として、テルサ別館 2 階にオープンソースラボを開設しており、講演会の開催や、交流サロンとして活用されている。
- ・ 人や技術の緩やかなつながりの中で振興していくものであり、事業計画所等の明確なものではできていない。
- ・ Ruby のブランド力により松江市が注目を集めており、企業誘致や大学講義が行われている。
- ・ Ruby の魅力により、若者に松江に来てもらい、空き家、空き店舗を活用するなどし、まちなかに住んでもらいたい。若者定住、若者定着という観点。

(意見等)

- ・ 市長のコメント等にも「Ruby City Matsue」というのが出てくるが、基本計画に載せるなら、具体的に何をどう目指しているのか、目に見えるようなものが必要ではないか。言葉としては分かるが、具体的なものを提示して欲しい。
- ・ 「Ruby City」は産業政策の重要な機軸として出ているが、具体的に見えにくい。「Ruby City 構想」の全体像はどうすれば分かるのか。
- ・ 最終的にまちなか居住にも資するもの。
- ・ もう少し攻めの姿勢が必要という印象を受けた。事業として掲載し、今後どうやっていくかということ。

[しじみ館整備事業]

- ・ 「しじみ館」に期待したい。NHKのテレビ小説「だんだん」でしじみ漁をする娘が主人公として登場する。急務の施設である。

【基本計画の実施体制について】

(意見等)

- ・ ばらばらな活動をしていてもなかなか前に進まないなので、間を取り持って、コーディネ

- ートしてくれるような、プロデュースしてくれる人が必要。
- 行政でできないことは民間でやるしかない。
 - 地元との協議は危険。地元と協議することの意味合いをよく鑑みて采配して欲しい。
 - 地権者の問題がある。
 - 横並びではなく、横につながっていくことが町を起こしていく重要なポイント。これからの時代は、協働ということにおいて、横につながっていくことこそパワーが発揮される。これまで階層的なシステム構造を強化することで日本経済は伸びてきたけど、現在は、ネットワーク型、柔軟な対応が求められるということ。

【まとめ】

- パブリックコメント募集の実施期間等に係るご意見については、1年前にパブリックコメント募集を行い、その後、中心市街地活性化協議会とも協議した上で、今回のパブリックコメント募集を実施したという経緯だが、謹んで受ける。
- 認定を受けた基本計画をホームページで閲覧できるようにして、随時意見を募集するようにしたい。
- しんじ湖温泉外湯事業は基本計画案への掲載を取り止める。条件が整えば、計画を変更して対応する。
- 基本計画案の文言等については事務局に一任するが、委員からも意見等があれば事務局に連絡すること。
- 基本計画の実施体制としては、横につながっていくことが重要で、そうすることで、パワーが発揮される。
- 中心市街地対策協議会委員及びアドバイザーの任期は3月末で終了するが、引き続き、ご意見等を伺っていきたい。